

1 期待する生徒像

- ・学習活動に積極的に取り組み、進路希望の実現を目指して自己を向上させようとする生徒
- ・部活動、生徒会活動、学校行事等に意欲的に取り組み、入学後も自ら学校生活を充実させようとする生徒

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者6名から8名・評価者2名の集団面接 検査時間：1グループ10分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書 アの数値を調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定2以下の教科がある場合、または選択教科に評定Cがある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	各学年において欠席が30日以上ある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	特に問題のある場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	特別活動の記録、部活動の記録、特記事項で、特に顕著な実績がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。 特記事項で特に問題のある場合は、審議の対象とする。
オ 総合所見	特に問題がある場合は、審議の対象とする。

(3) 面接 [30点満点]

2名の評価者が、次の2つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（問題がある）の2段階で評価する。2名の評価者の評価の組合せ（a a～b b）ごとに得点化する。なお、評価b bの場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機、高校生活への意欲	志望の動機が明確である。 高校生活に対する目標・意識が明確で、学習・部活動等に意欲的に取り組もうとしている。 将来の進路希望等について、具体的に回答することができる。
イ 質問に対する応答・身だしなみ・態度	中学校時代に頑張ったこと等について明確に回答することができる。 基本的な面接作法が身に付いており、服装・頭髪等身だしなみが整えられている。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について、慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点	第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	面接	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	30点	$(665 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあつては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取り扱いをしない。

イ 入学許可候補者に内定した者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による内定者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。